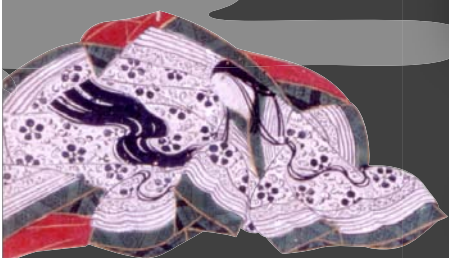


春季特別展

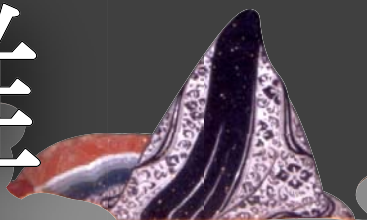
# 源氏絵と



HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM HOSOMI MUSEUM

# 雅の系譜

平成20年2月16日(土)～4月13日(日)



— 王朝の恋 —

展覧会名称 春季特別展  
「源氏絵と雅の系譜 — 王朝の恋 —」  
主 催 細見美術館 朝日新聞社  
後 援 源氏物語千年紀委員会  
会 期 平成20年2月16日(土)～4月13日(日)  
休館日 毎週月曜日  
開館時間 午前10時～午後6時  
入館料 一般1000円(800円) 学生800円(600円)  
※( )内は20名以上団体料金  
会 場 細見美術館



特別展示 雛かざり

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3  
TEL 075-752-5555 FAX 075-752-5955

細見美術館

## 開催趣旨

来る平成20(2008)年は、紫式部が『源氏物語』を執筆したとされる記録(紫式部日記)からちょうど千年の節目を迎える。本展覧会では、王朝文学の頂点をなす『源氏物語』の記念すべき年を鑑み、源氏絵の豊かな系譜を辿るとともに、工芸作品に表わされた「源氏イメージ」をも古今の作品に求めたい。

『源氏物語』は執筆当初から高い評判を得、読み継がれるにつれ、次第に主な場面の絵画化が試みられるようになった。はじめは絵巻や冊子の挿絵であったが、室町時代には扇面や画帖、屏風など多様な形態に展開するようになり、「源氏絵」としてやまと絵の中でも独特の位置を占めるようになる。また工芸意匠にも早くから取り上げられている。江戸時代には、「源氏絵」や源氏意匠の調度品が盛んに制作され、一方庶民にも物語が広まり、王朝の雅への憧れが込められた図様として広く親しまれた。

展覧会では、「源氏絵」が絵師にとってのひとつの規範であったことを示すとともに、物語絵の象徴として、その受容と変遷を振り返る。さらに染織や漆芸の世界において、「源氏意匠・源氏イメージ」が自由な発想の源泉となったことを、現代作家も含めた多彩な展示作品からご覧いただき、「源氏の美術」の魅力を伝えたい。

## 主な展示作品

### ■ 源氏絵の成立と展開

源氏物語扇面貼交屏風		6曲1双	室町時代	個人蔵
白描源氏物語絵巻断簡「夕霧」		1幅	室町時代	細見美術館蔵
源氏物語図色紙貼交屏風		6曲1双	江戸前期	石山寺蔵
源氏物語図屏風		2曲1隻	江戸前期	個人蔵
源氏物語図屏風「総角」	岩佐又兵衛	6曲1隻	江戸前期	細見美術館蔵
◎源氏物語絵巻「末摘花」		1巻	江戸前期	石山寺蔵
源氏物語手鑑	土佐光吉	10面	江戸前期	和泉市久保惣記念美術館蔵
源氏物語図色紙	土佐光吉	12面	江戸前期	石山寺蔵
源氏物語図色紙「初音」	土佐光吉	1幅	江戸前期	細見美術館蔵
源氏物語図屏風	月岡雪斎	6曲1双	江戸中期	石山寺蔵

### ■ 源氏イメージの広がり

扇面夕顔蒔絵引出箱		1合	江戸中期	細見美術館蔵
初音蒔絵文台		1基	江戸後期	細見美術館蔵
初音蒔絵手箱		1合	江戸後期	細見美術館蔵
初音蒔絵硯箱		1合	江戸後期	細見美術館蔵
源氏物語「花散里」	志村ふくみ	1領	平成14年	滋賀県立近代美術館蔵
源氏物語「須磨」	志村ふくみ	1領	平成15年	滋賀県立近代美術館蔵

### ■ 王朝への憧れ

○白描伊勢物語絵巻断簡(梵字経刷)		1幅	鎌倉時代	細見美術館蔵
時代不同歌合絵巻断簡	伝藤原為家	1幅	鎌倉時代	細見美術館蔵
藤の衣物語絵巻		1巻	室町時代	細見美術館蔵

### ■ 特別展示 雛かざり

立雛		1対	江戸後期	個人蔵
源氏粹雛飾り		1式	明治時代	個人蔵

◎=重要文化財 ○=重要美術品